



特定非営利活動法人

神戸日独協会会報

BERICHTE DER NPO JAPANISCH-DEUTSCHEN GESELLSCHAFT KOBE

Nr. 353

Dezember 2020

NPO法人 神戸日独協会

〒651-0087

神戸市中央区御幸通8-1-6 神戸国際会館19F

TEL/FAX 078-230-8150

郵便振替 01160-9-18199

E-mail: info@jdg-kobe.org URL <http://www.jdg-kobe.org/>

NPO JAPANISCH-DEUTSCHE
GESELLSCHAFT KOBE

International House Kobe 19F

Goko-Dori 8-1-6 Chuo-Ku

651-0087 KOBE/JAPAN

Guten Rutsch ins neue Jahr !

会長 栞田 義一

新型コロナウイルス感染の再拡大に気を取られているうちにはや師走となりました。今年は3月以降コロナ禍で季節を感じることもなく打ち過ぎてしまったのは私だけでしょうか。コロナ禍でそれまでの生活が一変してしまいました。目に見えないウイルスとの戦いが続き、それも第一波、第二波と我々を予知なく襲って来るために、日が経過するとともに気が緩んだり緊張が増したりとその繰り返しで消耗の日々が続いています。このようなそれまでの日常の喪失を我々は震災によって体験しました。その時はウイルスとの戦いとは異なり、心の痛みはあるものの身の回りの喪失は目に見え、その後の復旧・復興を肌を感じ頑張ることが出来ました。あの年のルミナリエの光の輝きに感激しました。同じ年末に開催された「クリスマス祝賀会」で会員が久しぶりに再会し、親交を深めたことは忘れられない思い出です。

コロナ感染で明け暮れをした今年こそ会員相互の交流を図るために、神戸日独協会にとって最も伝統があり重要な行事である「クリスマス祝賀会」を開催すべく、実行委員会の皆様のご協力を得ながら検討を重ねてきました。しかし11月以降感染が再び急速に拡大をしています。この情勢に鑑みて会員皆様の安全を第一に今年は「クリスマス祝賀会」の開催を断念することとしました。記録に残っている限りでは開催しないのは初めてのことです。非開催は非常に残念ですが、感染が落ち着きましたら、これに代わる行事を行いたいと思っています。

今年はまた神戸日独協会80周年とドイツ統一30周年の年でした。60周年、70周年と様々な行事でもって周年を祝ってきました。来年は日独交流160周年ですので、今年出来なかった祝賀をも併せて行事でもって祝いたいと思います。

新型コロナウイルス感染が発生してから生活は一変し、社会も沈滞化していますが、会員皆様のご理解とご協力をいただきまして、協会の存続と維持のための最小限度の活動を行うことが出来ました。心より厚くお礼を申し上げます。

感染拡大が終息し、会員皆様が幸多き新年をお迎えになられることをお祈りいたします。

Guten Rutsch ins neue Jahr ! 良いお年を

2020年度第Ⅳ期開講

1月7日(木)からドイツ語講座・ドイツ文化教室の2020年度第Ⅳ期が開講します。

本年度は4月の第Ⅰ期以降オンライン授業の導入、諸措置の解除後はクラスの事情に応じて対面授業への移行、秋からは対面授業で休むことなく継続してきました。会員の方々のご理解とご協力に感謝いたします。

しばらくの間はコロナ禍のためにかつてのようなドイツ及びドイツ語圏の国々との往来もままならず、ドイツ人との交流も疎遠となりがちになるでしょう。しかしこの機会をドイツ語のブラッシュアップや学び直しの好機ととらえて、交流の復活以降に備えてみませんか。

開講授業の詳細については、同封のパンフレットをご覧くださいか、協会事務室へお問い合わせください。

ドイツ語講座の多くのクラスは前期からの継続クラスですが、途中からの受講は可能です。

寒いうえに感染が懸念される今年の冬は、駅からも近い教室でドイツ語講座・ドイツ文化教室に参加しませんか。ご参加をお待ちしています。

2021年関西地区 日独協会合同新年会

2021年の関西地区日独協会の合同新年会を、1月8日(金)に開催いたします。

関西地区の大阪、神戸、奈良、和歌山、大津、京都の日独協会は、平素より互いに連携をして、日独親善交流に努めています。合同新年会は、各日独協会の会員が新春に集い新年を祝賀し、相互の懇親を深めるために毎年年初頭に開催しています。今回は好評の餅つきは行いません。

会員の皆様にはこの合同新年会に是非ともご参加いただき、新しき年のドイツとの交流についてご歓談していただきたく、ご案内いたします。

日 時 : 2021年1月8日(金) 18:00~20:00

場 所 : アサヒスーパードライ梅田

ニッセイ同和損保フェニックスタワーB1 TEL06-6311-2829

JR大阪駅徒歩10分、御堂筋線梅田駅徒歩10分

地下鉄谷町線東梅田駅、JR東西線北新地駅徒歩5分

会 費 : 当日 各自実費清算。

申 込 : 参加ご希望の方は、1月7日(木)までに、事務室にご連絡ください。

お早めにお申し込みください(事務室閉室中はFAX、メールにて)。

Tel: 078-230-8150 E-mail : info@jdg-kobe.org

新型コロナウイルス感染拡大による開催中止の場合は、決まり次第参加希望者にご連絡しますが、12月25日の17時半まで或いは1月7日(木)12時以降に事務室へお問い合わせください。

感染防止期間特別企画 『自宅でドイツを楽しもう！』

『家庭でドイツ料理を作りましょう』

Go to Eat キャンペーンが喧伝されていますが、ウイルス感染の再拡大を配慮して外食を控え家での食事を続けている方もいらっしゃると思います。このコーナーは、「家食」の献立にドイツ料理を取り入れていただきたく設けました。

今回はこのコーナーのために初めてご紹介して下さるドイツを代表するクリスマス用の焼ケーキです。お料理にまつわるお話も執筆していただきました。

第5回 「シュトレン」と「グリュウワイン」

料理研究家 日下部管子さん

1. シュトレン(Stollen)

砂糖漬けのドライフルーツ入りのドイツの伝統的なクリスマス用の焼いたケーキです。

ドイツでは、アドベントの始まる前に母親が焼き上げ、アドベント期間に、薄くスライスして少しずつ食べながら、クリスマスを楽しみに待つ習慣があります。少しずつ時間をかけて食べることで、熟成の味の変化を楽しむことができます。

* ヘルマン家でのクリスマスの思い出

ホストマザーの Erika はお料理が大変得意で、たいていのものは何でも作ってくれたのですが、シュトレンだけは作ることはありませんでした。というのも12月に入るとすぐに、Bonn に住んでいる Erika のお母さんから、たくさんの手作りのシュトレンの入った箱が送られてくるのです。母親にとって子供は大人になってもやはり子供で、4人の母親になっている Erika にも手紙と共にその箱の中には7~8個ほどのシュトレンと、クリスマスのモミの木に吊るすための様々なクッキーやチョコレートが入っていました。そして、彼女のお母さんからはほとんど毎日のように電話があり、一人っ子だった彼女をどれだけ心配しているかが分かるような、長い長い会話が母娘の間で交わされていました。でも、たいていは Dietmar が仕事に出かけた後に Bonn のお母さんの方からかかってきていました。

日本は12月24日をクリスマスイブの日と呼び、25日をクリスマスの日と呼んでいますが、ドイツではずいぶん違って、クリスマスは一年のうちでもっとも重要な祝日として、一か月ほど前から準備をします。

特に待降節と呼ばれるクリスマス・イブの4週間前からイブまでの期間をアドベント(Advent)と呼び、イエス・キリストの降誕を待ち望みます。その期間は牧師をしている Dietmar にとっては、日曜礼拝や結婚式、お葬式以上にこの日を待ちわび、いつもいそいそとしていたような気がします。Hellmann 家ではアドベントの期間中の日曜日には、必ず全員がテーブルを囲むことが約束され、中央に飾られたクリスマスリースに立てられたろうそくに、毎週一本ずつ火が灯され、Dietmar の手によって、シュトレンが薄くスライスされ、私たちそれぞれのお皿に、恭しく載せられました。

このケーキは真っ白い砂糖に覆われていて、まるで幼子イエス・キリストがおくるみに包まれている姿に由来しているところからクリスマスの季節に用意されるものだと Erika に教わりましたが、Dietmar からいただいた、とても薄くスライスされたシュトレンでは、私たち5人の子供たちの胃袋は満ち足るはずもなく、その後、彼が2階の部屋にお昼寝に上がったところを見計らって、台所に急ぎ、思いっきり厚く切ってもらった美味しいシュトレンをほおばりました。

12月の懐かしい思い出のひとつです。

2. グリューワイン (Glühwein)

赤ワインに香料を加えて、温めて飲む、寒い季節の飲物です。寒いドイツの冬に街角のスタンドで一杯のグリューワインで暖をとった方、クリスマス市で暖かいグリューワインのカップを手にはクリスマス用品を捜し歩いた方、今年は自宅でグリューワインを作り、この Stay Home の冬を暖かく過ごしてみませんか。

☆レシピは、調理時の便を考慮して別紙にて同封しています。

『ドイツの魅力、素晴らしさを共有しましょう』

ステイホームでドイツ文学をはじめドイツに関する書籍等を読んだり、ドイツ関係の映像を見たりしての紹介・感想などなどをお寄せください。「ドイツの魅力」を共有しましょう。

☆今回は、コロナ禍の今のドイツを伝えて下さる興味深い寄稿をドイツから頂きましたので、紙面の都合上このコーナーは休載します。

次号へのご寄稿をお待ちしています。

会員の広場

ウイルス感染防止のために協会の行事・催しが出来ないために、会員相互の交流の機会を持つことが出来ずにいます。このコーナーは、会報を通して交流していただくための「広場」です。

ご投稿をお待ちしています。

(投稿規定: MSPゴシック12ポ、A4 1枚程度まで (多くの方に投稿していただくために、字数を厳守してください)、添付にて毎月第二月曜まで事務局へ)

Weihnachten mit der Familie?

Andrea Kehle-Jandl

Das ist die große Frage, die sich viele dieses Jahr im November stellen. In dieser Ausnahmesituation, die als Teil-Lockdown bezeichnet wird, was harmloser klingt als es ist. Kein Karnevalsbeginn am 11.11., das Datum, wo die sogenannte fünfte Jahreszeit eingeläutet wird. Kein Sport mit mehreren Personen – weder aktiv noch passiv, kein Museum, kein Konzert, kein Vortrag, kein Café, kein Restaurant, keine Feier, keine

Reisen, keine Weihnachtsmärkte. Alles erstmal bis Ende November – aber wird das reichen?

Das wir nahezu überall mit Masken unterwegs sind, ist schon zur Gewohnheit geworden. Im Norden ist es der „Schnutenpulli“ im Süden das „Maultäschle“, dazu die Richtlinien, was die richtige „Mund-Nase-Bedeckung“ sei – kein Schal, kein Tuch, die (selbstgenähte) Stoffmaske eigentlich auch nicht und durchsichtige Visiere ebenfalls nicht. So bleibt die OP-Maske als der Mode letzter Schrei und da wir beim ständigen Bemühen die AHA plus L -Regel einzuhalten nichts zu lachen haben, lächeln wir unter der Maske auch nicht mehr.

Jedes Schulkind soll nicht nur „aha“ sagen wenn es verstanden hat worum es geht, sondern „Alltagsmaske, Hygiene, Abstand = AHA“ auch einhalten. Dazu wird immer gelüftet – das ist das große L. Nur – je moderner das Gebäude ist, desto mehr Glas ist verbaut und desto weniger Fenster sind auch solche, die man öffnen kann. Beim Lüften sind wir natürlich der Zugluft ausgesetzt, was auch zu einer – für die Deutschen – typischen Erkrankung in Form einer Erkältung oder eines steifen Nackens führen kann.

Es wird den Winter über weitergehen wie bisher. Was sich aber geändert hat, ist: die deutsche Bevölkerung kann jetzt Schlange stehen. Also kein Gedrängel und Durchboxen mehr im Postamt, am Marktstand oder beim Bäcker – alle warten bis sie an der Reihe sind. Das ist eine unglaubliche und sehr angenehme Veränderung. Und – man kann jetzt bei einem gewöhnlichen Schnupfen eine Maske tragen. Früher hieß es, das macht man nur in Ostasien. So hat jeder Nachteil auch seinen Vorteil.

Ob wir Weihnachten mit der Familie feiern – das wissen wird nicht. Sicher ist nur, dass wir eine Maske tragen, die Hände waschen, nicht dicht auf einander hängen – und – lüften.

Erläuterungen

- 1) Am 11.11. wird der Karneval in Köln. Düsseldorf und am Niederrhein eröffnet, in Mainz die Fassenacht. Die 11 gilt als närrische Zahl. Man trifft sich an diesem Tag kostümiert.
- 2) „Schnute“ ist ein norddeutscher Ausdruck für „Mund“. Man sagt auch, jemand zieht eine Schnute, ist beleidigt oder schlecht gelaunt.
- 3) „Maultaschen“ sind ein Nationalgericht der Schwaben. Im Dialekt sagt man oft „Maul“ für „Mund“ und „le“ für „lein“ macht alles niedlicher.
- 4) „aha“ – mit Betonung auf dem zweiten a, ist eine Lautmalerei, dass man etwas verstanden, erfahren oder erkannt hat

クリスマスを家族と一緒に過ごすのか？

会員 アンドレア ケーレ＝ヤンドル

これは今年の11月、部分的ロックダウンという言い方がもたらす印象よりも甘くはない。この異例の状況において、多くの人々が自らに行う大きな問いかけなのです。

11月11日のカーニバル(謝肉祭)の幕開けありませんでした。本来ならこの日にいわゆる「第5の季節」の始まりが鐘を鳴らして告げられるのですが。何人もの人とスポーツをすることも、スポーツ観戦もできない。美術館も、コンサートも、講演も、カフェも、レストランも、パーティも、旅行も、クリスマスマーケットも、どれもだめなのです。すべてのことがとりあえずは11月の終わりまでの予定ですが —でも、これで充分なのでしょう？

外出中にほぼいつでもマスクをすることは、すでに習慣になってしまっています。それは北ドイツでは”Schnutenpulli(「口のセーター」)”であり、南ドイツでは”Maultäschle” (文字通りの訳は「口の袋」ですがシュヴァーベン地方の(詰め物をしたラビオリ風の)典型的な名物料理)なのですが、このマスクには正しい「口と鼻のカバー」といういろいろな指導基準があります—スカーフやハンカチではだめで、(自分で縫った)布マスクも本来ならば不適ですし、透明なシールドも同じくだめなのです。だから最新のファッションアイテムとしてはあの医療マスク(不織布製マスク)しか残っていません。それに私たちの AHA+L「マスク・消毒・距離+換気」ルールを守ろうとする絶え間ない努力の中では、笑えることは何も残っていません。もはやマスクの下では微笑みさえ出ません。

学童が”aha”と言うのは、課題の理解ができた時だけでなく、「日常のマスク(Alltagsmaske)、消毒(Hygiene)、距離(Abstand) = AHA」規則を常に守らなくてはならないということでもあります。それに加えて換気が常に行われます —これが大文字の L(=Luft 空気)です。ただし、建物が近代的であればあるほど、ガラスがより多く使われていますし、ガラス面が多ければ多いほど、実際に開けることのできる窓も少ないのです。換気の際には、当然絶えず風を通すことになります。このことは、—ドイツ人にとっては— 風邪や肩こりといった典型的な症状を招くことになるのです。これまでのように、こうしたことは冬を越えても続くでしょう。しかしながら、変化したことがあります。それは、ドイツの住民が今では、列に並んで待つことができるようになったということです。だから、郵便局や市場での露店やパン屋での混雑や割り込みということはもうなくなりました —みんな、自分の番まで列に並んで待っているのです。これは信じられない、とても好ましい変化です。そして —軽い鼻風邪の際でもマスクをつけることができるようになりました。以前はこう言われていたものです。そんなマスクをすることは東アジアでしかないよと。つまり、どんな不都合なことも、長所になるのです。

クリスマスを家族と一緒に祝えるのかはまだ分かりません。

ただ確かなのは、私たちはマスクを身につけ、手を洗い、お互いに密にならないように、—そして— 換気をするということなのです。

筆者注釈

1) 11月11日には、ケルンとデュッセルドルフと低地ライン地方ではカーニバルが開かれる。マインツでは Fassenacht という名で開催されている。11は、カーニバルの数字とみなされている。人々はこの日に、仮装をして集い合う。

- 2) "Schnute"は、北ドイツの表現で「口」を表す。また、(Schnute はゆがめた口やふくれっ面をも意味し)「誰かが膨れっ面をする(jemand zieht eine Schnute)」という表現は、侮辱されていたり、悪い気分のあるときに使う。
- 3) "Maultaschen"は、シュヴァーベン地方の(ラビオリのように詰め物をした)典型的な名物料理である。方言でしばしば、"Maul"は「口」を意味し、"le"は"lein"という接尾辞で、かわいらしいものという意味にする。
- 4) "aha"— 2つめの a にアクセントが置かれる—は、擬音語で、人が何かを理解したり経験したり、分かったりしたときに使うものである。

* ()内は訳者付記

(会員 湯浅恵理子訳)

☆ Andrea Kehle-Jandlさんはドイツのボーデン湖畔のフリードリヒスハーフェン Friedrichshafen にお住いの会員です。2016年11月に神戸にいらっしやった時の歓迎会に出席された方には懐かしいお便りだと思います。コロナ禍のドイツを知ることのできる時宜を得たご寄稿に感謝します。

現地レポート 「コロナ禍のドイツとメディアについて」

ラッハマン早希子

こんにちは。ドイツ ザクセンアンハルト州 デッサウ在住のラッハマン早希子です。今日は、現地レポートということで、今皆さんが気になっているコロナ禍のドイツの様子をお話したいと思います。私の住んでいるデッサウという街は、ベルリンから車で約1時間半ほど離れた旧東ドイツの町で人口8万4千人という中規模の街です。なので多少大規模に今回感染が拡大したミュンヘンやベルリンなどと街や人の様子が違うと思います。また、これは私の視点から見たドイツの様子なので、ドイツにいるすべての方が感じていることではないということを前提にお読みください。

まず私の住んでいるデッサウは、第一波が来た時、ドイツ全体で一番感染者が少ない街で一番最後にロックダウンになった町です。なので比較的落ち着いた感じですが、第一波の時はなんとなくみんながピリピリしていたまに警察もパトロールするという感じでしたが、今はそんなことはないです。スーパーやお店、交通機関、病院などはマスク着用義務ですが、外ではマスクはしなくていいので、皆さんお店から出たらすぐにマスクを外している感じです。人が混雑しているような大きな街(ミュンヘンなど)の通りでは義務化になっているところもあるようです。今回第一波と変わったところは、学校が休みでないということと生徒も授業中以外はマスクをしないといけないということです。この点でもやはり大きな都市では授業中もマスクをしないといけないとか。

現在のベルリンやライプツィヒの各都市では政府がコロナ対策を厳しく法律で取り締まろうとする政策に反発する人達の間でデモが行われています。コロナ騒動に便乗してメディアが市民の主張を訴えているデモを過激であると報道したり、意見として投稿したものを政府が削除したりと、自由な意見を発言する権利を心配する人達がいることも事実です。

私は、個人的に以前からメディアや政治家の言うことは半信半疑で聞く方で、一つのメディアの報道だけでなくいろいろな目線で書かれた報道を読んだり、見たりして、一喜一憂、一つの話に自分

が流されることのないようにしています。人によって感じ方や考え方が違うのは当たり前のことです。いろいろな情報を集めて自分なりに解釈し、他人の考えは尊重し、また自分の考え方を他人に押し付けず、自分が今、これからどうありたいか、どうしたら楽しく生きていけるかを考えて、この状況を乗り越えたいと思っています。

きっとこのコロナ禍ももう少しで終わるかもしれません。その時のためにいろいろ準備して、前を向き、自分を高めていきたいと思います。早く自由に行き来できる様になってほしいですね。

☆2018年、2019年の「ドイツ家庭料理講習会」の講師や「ドイツ文化サロン」での講演をしていただいたラツハマン早希子さんから、今のドイツの様子を伝えるレポートが届きましたのでご紹介いたします。昨年、ご主人の故郷であるドイツに転居されて元気にお子様と家族でお住まいです。

コロナ禍のドイツの状況を日本人の目から見た時宜を得たレポートに感謝します。

ドイツ新事情 —Deutsche Welle の記事から—

村上春樹、並びに日本の小説の人気

理事 押尾 愛子

村上春樹は世界的に知られている。特にヨーロッパで日本文学は人気がある。何故そうなのか、翻訳家のウルズラ・グレーフェ Ursula Gräfe が解説する。

空から魚が降ってきたり(注1)、人と動物の創造物(注2)というのは、村上春樹の小説の中では‘普通の’現象のいくつかにすぎない。この日本人の著者は、ベストセラーが約50か国語に翻訳されて、世界中に何百万人のファンがいる。

京都生まれのこの作家は、日本以外で成功をおさめた最初の日本人作家ではないにもかかわらず、一川端康成と大江健三郎は二人ともノーベル賞受賞者だ—村上春樹は日本文学のイメージを変えた。村上のお陰で日本の小説は以前よりずっと多く翻訳されている。

ウルズラ・グレーフェはすでに多くの村上作品をドイツ語に翻訳している。グレーフェにとって日本の小説はしばしばひとつの社会を写し取っており、その社会は我々自身の社会とは異なっているが、同じような諸問題と戦わなければならない。村上春樹は、この種の文学の地ならしをしてくれたパイオニアの一人だと、彼女はドイチェ・ヴェレに語っている。

なぜ村上春樹はドイツ人の読者にそれほど人気があるのか

村上春樹は1987年に”Naokos Lächeln”「ナオコの微笑」(注3)で文学の主流に登場した。このノスタルジックな愛の物語は1960年代の東京が舞台で、孤独、喪失、望郷、退屈といった古典的な村上春樹のテーマが重なり合っている。村上春樹作品の主人公たちはしばしば慣習にとらわれないライフスタイルで際立っており、確固たる関係を持たないキャラクターで、伝統的な家族とは疎遠であったりもする。

「ナオコの微笑」は日本ではとりわけ人気があるが、ヨーロッパの読者もまた、男性女性問わず、そこに描かれた普遍的な経験の中で自己を取り戻すのだ。ウルズラ・グレーフェによれば、ドイツの読者はもしかすると村上春樹作品の特別な理解者かもしれない。戦後社会日本で成長したことが村

上に強く影響を与えたと、この翻訳家は言う。「国の伝統や歴史を拒否して、アメリカ音楽が重要な役割を占めるような、新しい自由なライフスタイルに傾向したというのは、日本とドイツに共通する経験です。」

村上の刺激的なシュールな世界

ドイツには2種類の村上の読者がいるとグラーフエは言う。「ナオコの微笑」のようなその土地特有の物語が好きな人と、”Die Ermordung des Commendatore”「騎士団長殺し」(2018ドイツ語訳ウルズラ・グレーフェ)のようにシュールな小説を好む人がいる。村上は、魔術的リアリズムでシュールな世界を創り出すことで知られている。

村上の物語の中では予測できない出来事が起こることが、ヨーロッパの読者には大きな魅力となっている。異なった世界がよどみなく相互に作用しあうことに、全てのものがこうして繋がっていくことに、読者は引き込まれ、非現実のように思われるものとの村上の自然な付き合い方を高く評価している。

日本文化:それは不確かな時代の避難場所

村上のドイツ語訳のデュモント出版社の広報担当のリーダー、マリー・クレール・ルーカスは、ドイツでの日本文学の成功の理由は、この地での「日本文化全般への人気の増大」にあると言う。ウルズラ・グレーフェは、マンガやアニメが重要な要因だと思っている。「至る所で視覚的な文化が以前に比べてより重要になってきています、視覚的なものは日本では以前からずっと非常に意味があり、極めて特徴的です。」

プリンストン大学の東アジア研究部門で教鞭をとっているフランツ・プリチャードによれば、同時代の日本の大衆文学がそれほど広く人気を博しているのは、それがこの現実の世界およびその過激な両極端からの快い避難場所を、とりわけ政治的な不安が厳しくなる時代に与えてくれるからだ。ある場所から別の場所へ‘逃避’を求めるのではなく、文学的世界が我々に可能にしてくれる‘避難場所’がより重要だと、プリチャードはドイチェ・ヴェレに語る。そのような文学的‘避難場所’という場所は、暴力の増大に直面し、世界的に広まった新自由主義や権威主義的な国家資本主義を通じて呼び起こされて、今後も新しい表象世界を生み出すだろうと、彼は思っている。

日本文学の幅の広さ

幸いなことに、‘西洋における日本についての一般的イメージ’はこの何十年間のうちに変わってきている。その結果、今日、ヨーロッパの読者はもっと多彩な日本人の言葉に接近しつつあると、グレーフェは強調する。1990年代までは日本語からの翻訳は、ほとんど夏目漱石とか谷崎潤一郎といった‘古典的な’著者だけだった。

今日、現代日本の難しい社会的状況と正面から向き合っている若い作家について、男女を問わず翻訳の需要がある。最近、いくつかのディストピア小説、例えば村上龍とか吉村萬壱が翻訳された。

若い日本の女性作家が躍進中

村田沙耶香(”Das Seidenraupenzimmer”「かいこの部屋」(注4)ウルズラ・グレーフェ訳)や川上未映子(”Brüte und Eier”「乳と卵(らん)」カーチャ・ブッソン訳)、一両方とも2020年にドイツで出版—のような若い女性作家がヨーロッパで大いに注目されている、何故なら彼女たちが現在の社会に対して、妥協のない、時には過激ともいえる態度をとっているからだと言っている。グレーフェは言う。

村田の”Die Ladenhüterin”「店(たな)ざらしの商品」(注5)(ドイツでは2018ウルズラ・グレーフェ訳で出版)は、その作品の中で社会的圧力、順応主義、女性蔑視などをこと細かに描き出し、彼女の「かいこの部屋」では主人公の女性は性的虐待を受けていて、これらの作品はある女性読者層の間で、世界中で共感を得ている。プリチャードはこの新しい傾向を、'何が可能で、何が変わらなければならないか'を慎重に探りながら、世界中の'社会的、生態学的公平を求める動きが、上昇する波'となってきたからだと言う。

(注 1)「海辺のカフカ」(注 2)「羊をめぐる冒険」とか(注 3)「ノルウェイの森」(注 4)「地球星人」(注 5)「コンビニ人間」

Deutsche Welle: Haruki Murakami und die Popularität japanischer Romane (13.11.2020)より。

(このコーナーは、神戸日独協会ドイツ語講座講読クラスLN(火曜日)の受講者が授業で読んだ記事の中から興味深い up date なニュースを随時会報にて紹介しています)

ドイツ語談話室

第201回ドイツ語談話室

日 時 : 2020年11月21日(土) 14-16時

場 所 : 神戸日独協会会議室

テーマ : アメリカの次期大統領

今回の司会は川見正之氏が担当され、かつてない異例なアメリカ大統領選挙のこれまでのいきさつを振り返られた。アメリカの150年の歴史と伝統ある2大政党制のもとで、トランプ氏のやり方は常軌を逸しており、次期大統領となるバイデン氏はずいぶん難しい問題を背負い込むことになる。気候変動対策やイスラエルへの偏り等を正すのは大変だ。次に参加者の皆さんからの意見の一部を下記紹介する。

—ジョー・バイデン氏にちなんで、日本で地名や名前の読み方が似ているケースがよく取り上げられる。オバマ大統領の時も同じような事があった。

—アメリカの大統領選挙に関するニュースがあまりにも多くまた様々で、その選択に困るが、トランプ氏にもアメリカの一部の人間にとってはプラスの面があったようだ。バイデン氏は実務家のようにだが高齢であるてん気懸かり。

—トランプ氏については4年間の間にいろいろな問題が明るみに出てきた。脱税行為や不法な問題を、大統領の不逮捕特権を利用して避けてきたようだ。

—アメリカのデモクラシーは、日本にとって一つの模範であったが、現状を見るとアメリカのデモクラシーは機能していないようだ。アメリカの大統領選挙制度は大丈夫なのか疑う。

—トランプ氏はまともな大人には育っていなくて、わがままいっぱいの子供のまま。こんな人物を大統領候補に推す共和党の考えは不可解だが、もっと判らないのは、彼をサポートするアメリカ人が48%近くもいるという事実。

—アメリカは世界中の人々にとって、努力すればあらゆる可能性を実現できる国とされてきたが、このような理想はなくなってきているように見える。

—アメリカ大統領選挙のシステムがいま一つわかりにくい。選挙には申請が必要で、申請して認められた人だけが投票するのであれば、トランプ氏の言う不正など起こりえないと思うのだが。

今後のドイツ語談話室の予定

第 202 回 2020 年 12 月 19 日(土) 14-16 時 テーマ: 冬季・特にクリスマス・正月の食べ物

第 203 回 2021 年 1 月 16 日(土) 14-16 時 テーマ: 新年への夢、希望、願い、また懸念

Deutsche Gesprächstunde

Protokoll der 201. Deutschen Gesprächstunde

Zeit: Samstag 21. November 2020, 14 bis 16 Uhr.

Thema: Der nächste Präsident der USA

Dieses Mal hatte Herr Masayuki Kawami die Gesprächsleitung und sprach von der ungewöhnlichen Situation bei den amerikanischen Präsidentschaftswahlen. Aus Sicht der 150-jährigen Tradition des amerikanischen Zweiparteiensystems zeigt sich Präsident Trumps Verhalten als ziemlich sinnlos und auch beschämend. Der nächste Präsident, Joe Biden, hat schwierige Aufgaben zu übernehmen, so z.B. erneute Kursänderungen in der Umweltschutzpolitik, der Nahostpolitik etc.

Hier einige Stellungnahmen der Teilnehmerinnen und Teilnehmer:

-Wie oft bei amerikanischen Präsidentschaftswahlen kommen Namen, auch Ortsnamen, ins Rampenlicht, deren Aussprache dem Namen des neuen Präsidenten auf Japanisch irgendwie ähnelt.

-Es sind zu viele und zu verschiedene Nachrichten über die Wahlen im Umlauf, dass es schwer ist, die richtigen Informationen herauszufiltern. Für viele Amerikaner schien Donald Trump offensichtlich als Präsident akzeptabel. Joe Biden wird den Job erledigen können, obwohl er aber nicht mehr der Jüngste ist.

-Während Trumps vierjähriger Amtszeit kamen Skandale ans Licht, Fragen nach seinen Steuerzahlungen, etwaigen Gesetzübertretungen etc. Durch das Sonderrecht des Präsidenten hat er eine weitere Verfolgung dieser Fragen bislang vermeiden können.

-Die Demokratie in den USA war ein Vorbild für Japan. Leider scheint diese Demokratie jetzt nicht mehr ganz zu funktionieren. Es erheben sich auch Zweifel an der Sicherheit des amerikanischen Präsidentschaftswahlsystems.

-Präsident Trump benimmt sich teilweise wie ein eigensinniges Kind. Warum die Republikaner ihn zu ihrem Kandidaten machten, ist nicht ganz einsichtig und ebenso nicht, wieso 48% der Amerikaner ihre Stimme für ihn abgeben konnten.

-Amerika wurde als eine Art Utopia betrachtet, als Land der unbegrenzten Möglichkeiten. Dieses Ideal scheint schon der Vergangenheit anzugehören.

-Das Präsidentschaftswahlssystem der USA ist ziemlich kompliziert und schwer zu verstehen. Um zu wählen, bedarf es einer Anmeldung. Es scheint daher nicht sehr wahrscheinlich, dass es derart viele ungesetzliche Stimmabgaben gab, wie Präsident Trump glauben machen möchte.

Nächste Treffen:

Samstag 19. Dezember 2020, 14 bis 16 Uhr. Thema: Speisen in Winter besonders an
Weinachten und Neujahr.

Samstag 16. Januar 2021, 14 bis 16 Uhr. Thema: Träume, Hoffnungen, Wünsche und
Sorgen für 2021

12月の実行委員会のお知らせ

12月の実行委員会を下記のとおり開催します。実行委員以外の方にも是非ともご参加の上ご意見をいただきたくお願いいたします。

日 時: 12月20日(日)15時～

場 所: 神戸日独協会会議室

事務室からのお知らせ

年末・年始の協会事務室の閉室について

12月28日(月)から1月6日(水)まで事務室は閉室します。

※閉室期間中、催し等のお申込み・お問合せはFAX・メールでお願いいたします。

Das Büro der JDG Kobe ist von 28. Dezember bis zum 6. Januar geschlossen.

会報印刷・発送ボランティア募集

会報の印刷と発送を手伝ってくださる方を募集しております。次回の印刷と発送は1月14日(木)を予定しています。

お手伝いいただける方は事前に事務室へご連絡下さい(TEL/FAX 078-230-8150)。

印刷: 兵庫県国際交流協会作業室(神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号

国際健康開発センター2階、県立美術館西隣)にて、10:30より1時間半程度

発送: 神戸日独協会にて、12:30～

これからの神戸日独協会の催し

行事及び催し物の開催については、ウイルス感染防止のため日時の確定及び実施が極めて流動的ですので「一覧表」は割愛させていただき、その都度別途「協会ホームページ」でお知らせいたします。「協会ホームページ」でご確認いただくか、あるいは協会事務室へお問い合わせください。